

第 56 回宇宙理学委員会議事録

日程：平成 29 年 2 月 27 日（月）11:00～

会場：研究管理棟 2 階会議場

出席者：草野委員長、海老沢幹事、藤本幹事、山田亨幹事、井口委員、石岡委員、一本委員、今村委員、金田委員、河合委員（TV）、倉本委員、塩谷委員、芝井委員（TV）、住吉委員、田中委員、坪井委員、中川委員、中島委員、永田委員、中村委員、羽生委員、早川委員、藤井委員、牧島委員、三好委員、吉田委員、渡邊誠一郎委員、
宇宙研：常田所長、稲谷副所長、深井執行役、佐々木科学推進部長、満田研究総主幹、

陪席：堂谷研究主幹、船木准教授、

説明者：久保田 PD、坂本尚義（キュレーション専門委員会・北大）石川正道（宇宙環境利用専門委員会・理研・TV）、石井信明教授（あかつき ISAS 飛翔）、羽生准教授（SS-520-4・ISAS 飛翔）

事務局：科学推進部和木、古賀、早川

所長挨拶

X 線代替機の予算が国会で審議中。NASA では正式スタート。ESA も ASTRO-H と同じ体制が取れそう。宇宙研が改革を行うことが前提で、政府も外国機関も認めてくれた。

業務改革推進委員会ができた。JAXA 全体でプロジェクトの改革を行う。

SLIM の重量増が問題となっている。

MMX は川勝、倉元の体制で本格的に始動。NASA からは AO が出る。CNES とも合意。ランダーについて海外機関と調整中。

あらせは順調である。

SS520-4 は失敗した。原因は、民生部分ではなかった。

戦略的中型二号機候補は、LiteBIRD と Solar-sail、どちらもフェーズ A1。もうじき中間報告。

SPICA は ESA にプロポーザルを出した。採択を前提として、実施体制を検討したい。

1. 宇宙科学に関する最近の動き

佐々木部長から報告された。政府審議会にて工程表の改訂が承認された。来年度から X 線代替機がスタートする。小型計画はそのまま。公募型小型 3 号機は、7 月に公募開始予定。戦略中型 2 号機は、2018 年 4 月頃公募開始予定。

A-H、終了審査を実施中。MMX は 6 月に経営審査実施予定。

1.1. SS520-4 号機実験報告

羽生准教授から説明された。飛躍的低コスト化に挑戦した。衛星は 3kg 程度の超小型衛星。SS520-4 ロケットは、二段式の SS520 を改造した三段式ロケット。

発車後 20.4 秒にデータが途絶えたので、二段目の点火を行わなかった。テレメータデータが途絶した原因は、電源異常と特定した。レーダは生きていた。ケーブルダクト周辺で不具合が発生した可能性が高い。

2. 第 55 回宇宙理学委員会議事録（案）について

議事録は承認された。

3. 諸報告

3.1. 委員会報告

3.1.1. 宇宙工学委員会

永田工学委員長から、第 52 回、53 回工学委員会について報告された。ミッション選定プロセスの明確化を、所に求めることになった。WG 活動を経ずにミッション化されたものについてどう扱うか、引き続き議論する。

3.2. 国際調整報告

山田国際調整主幹から報告された。X 線代替機、MMX の国際調整を進めている。SPICA の ESA での選定は 6 月。

3.3. 小規模計画の審査状況について

満田研究総主幹から報告された。1 月 13 日、公募締め切り。16 件の提案があった。宇宙物理が 8 提案、惑星が 6 提案。工学が 2 提案。コア委員 4 名（理学、工学委員長、PD、研究総主幹）の下に、分野担当委員を置く。各提案に二名ずつ専門的な評価者を付ける（理学委員に限らない）。2 月末、全専門評価者に評価依頼を发出。3 月半ば、専門評価の集約。

フェルミは、今年度の予算を要求している。コア委員会として承認した。

3.4. 戦略的開発経費公募について

中川審査委員長から報告された。1/31 に公募締め切り。現在、書面審査中。14 件の公募、2 億 6 千万円の要求。金額ベースで約 2 倍強の倍率。「戦略的キー技術領域」が未だ選定されていない。

4. 議事

4.2. 公募型小型計画の選定について

上野審査委員長の代理で山田幹事から報告された。DESTINY+と JASMINE について、 Δ MDR を実施することになっていた。理工合同で、2月14日に Δ MDRが実施された。そこで明らかになった課題についてWGに回答を要求し、2月21日にWGから提出された。現在、評価結果を取りまとめ中。

JASMINE については、3月中旬に事前説明会、その後、 Δ MDR を実施予定。

4.3. 来期の理学委員会の体制および運営要領の改訂について

草野委員長から報告された。理学委員の人数は、研究所会議で決定する事になっていた。2月22日の研究所会議にて、理工学委員会の委員数は同数で、各25名程度、そのうち所外の委員が半数以上と決定された。委員の選出は選出委員会に委ねる。所外委員の選考については、宇宙理学メンバによる投票結果を尊重する。現在、電子投票を実施中。所外の選出委員は、前回の委員会で、芝井委員、渡邊委員に決定した。

今回、所内の選出委員は、太陽系分野は、早川教授。宇宙物理分野は吉田教授に決定した。

運営要領の改訂案はメール審議とする。

4.4. 次期委員の選出について

海老沢幹事から説明された。電子投票を実施している。3月7日締め切り。投票による上位二十名の名前を、順位無しで理学メンバに発表する。選出委員会には、順位を付けて投票結果を伝える。

4.5. プログラム年度末報告

藤本幹事から、プログラム年度末報告の趣旨について報告された。今までは各プロジェクトから個別に年度末報告を受けていたが、それには時間が掛かり、全体像が見えにくかった。今年度からプロジェクトの総体である「宇宙科学プログラム」について、所から報告を受けることとした。

久保田PDから、資料に基づいて報告された。

4.6. ひさき運用延長審査

藤本運用延長審査委員長から報告された。国内メンバによって、科学成果以外について、メール審議を実施した。科学的な成果については、3月に国際レビューを実施する。

4.7. 専門委員会年度末報告

4.8.1. 大気球専門委員会

吉田委員から、第5回専門委員会、第6回専門委員会、H28年度大気球実験評価について報告された。

4.8.2. 観測ロケット専門委員会

石井教授から報告された。過去10年にわたって、号機毎の実験の科学的評価に関する評価を行った。

4.8.3. 宇宙環境利用専門委員会

石川委員長から報告された。H29年度9月まで、現委員で専門委員会活動を継続することを申し合わせた。

4.8.4. キュレーション専門委員会

冨本地球外物質研究グループ長から報告された。

4.8. 宇宙科学の今後20年の構想を検討する委員会報告

今村委員から報告された。RFIのアップデートが必要であるかどうか検討した結果、必要ないだろうという結論になった。それとは違いかたちで、コミュニティの意見を集約する。

4.9. 大気球・観測ロケットの評価と将来への提言

海老沢幹事から報告された。前回の委員会の後、大気球・観測ロケット実験に関係する委員の意見を取り入れて、提言案を改訂した。提言を実施する主体が宇宙研であることをはっきりとさせて、さらに改訂する。

4.10. WG 設立審査（系外惑星紫外分光 WG）

石岡 WG 審査委員長から報告された。系外惑星紫外分光 WG 設立提案について、書面審査を行った。審査結果に基づいて、WG 設立を認めたい。

系外惑星紫外分光 WG 設立が認められた。

もう一件、WG 設立審査 (THOR ワーキンググループ設立) が来ているが、今回の委員会には間に合わなかった。3 月中に審査する。

4.11. 来期理学委員会への申し送り事項について

4.12. 宇宙科学ミッションの規模と頻度について

来期の理学委員会への申し送り事項としてフリーディスカッションをおこなった。前々回の委員会で、宇宙科学ミッションの規模と頻度について議論したが、継続的な議論が必要である。

5. その他

5.1. 宇宙理学班員登録申請について

二名の新規宇宙理学メンバが承認された。

以上